



有限会社 マサヤ

代表取締役 た おか まさ ひろ 田岡正廣 様

度会郡南伊勢町宿浦1114-10 TEL (0599)69-3111



今回の企業訪問は南伊勢町の「有限会社マサヤ」様におじゃまし、田岡正廣社長にお話を伺ってきました。

(有)マサヤ様といえば、今では伊勢志摩を代表するスイーツであり、お土産にも最適な『でこたんようかん』の販売で伊勢志摩はもとより三重県を代表する、また世界へ羽ばたく事業所です。

店舗の所在地である南伊勢町の宿田曾地区は、昭和の高度成長期には1,000戸あまりの集落に300tクラスの遠洋漁業船が100隻以上が操業する大変栄えた港町でした。

しかし、時代の流れで過疎化が進む中、まちおこしを真剣に考えて田岡社長は次々とアイデアを練り出し現在の『でこたんようかん』の販売につながっているようです。

『でこたんようかん』の話の前にまちおこしで、南伊勢町五ヶ所城城主で剣祖と言われる愛



洲移香齋久忠の名前にちなんだ「純米酒『愛す』」の醸造販売に取り組み、その後水産業の盛んな地域らしく、醸造の難しいとされる「あおさ」を素材に、三重県工業技術研究所の栗田農学博士を始め、多くのかたの力を借りて試行錯誤の末、「あおさ焼酎『この空 この海 このあおさ』」の醸造販売に成功されました。今後は酒類

卸売免許の認可を受けて、全国の酒販店への卸売が可能になるということです。プレミアムがついて入手困難になる前に、まだの方は早くご賞味ください。

企業が福利厚生の一環で社内に自動販売機を設置しても、管理は相手先任せが当たり前の時代に、田岡社長は地域ではまだ誰も手がけていなかった、清涼飲料水の商品補充も含め売上管理のすべてを行う自動販売機の設置推進を30年ほど前から取り組み、当時缶コーヒーのBOS Sが販売開始されて、現在アラフォー以上の男子なら誰もが一度は憧れた「BOS Sジャン」のプレゼント人気も相重なって、いや、販売戦略の賜物であると思いますが、東海地区でも怒涛の売上高を記録し、ライバル清涼飲料水メーカーの東海地区の会議の中で、三重県の小さな漁師町の小売店がとんでもない売上を上げていると、(有)マサヤ様の名前が上がったほどでした。



企業訪問

さて、いま世界的に注目の『でこたんようかん』ですが、最初はやはりまちおこしで「なにかせないかん」との思いで、南伊勢町の温州みかんではなく、まだ栽培をはじめてこれから売り出そうというデコポン（南伊勢ブランドでは「デコタン」）を素材に伊勢調理製菓専門学校との協力の下、いろいろなお菓子の試作を重ねたそうです。いろいろな試作の中で、ようかんはそれほど評価は高くなかったそうですが、販売をするにあたり日持ちがするとか、扱いが楽などリスクを少なくする方向に重点をおいて商品の決定に至ったそうです。



しかし、それがのちの商機につながり、ようかんの柵のままではなく個包装にすることにより、お土産や、差し入れ等に利用しやすく売上の増大につながっていくことになったようです。



いろいろな人のご縁で最初は伊勢市の(有)藤屋窓月堂さんに製造の委託をしていたそうですが、販売数の増加に伴い手作業での製造には限界があり、藤波社長の紹介で、現在は井村屋(株)さんにて製造をお願いしているとのことでした。



しかし、これが人のご縁と言うべきか、秋にバンコクで開催された「ジャパンフードフェア2018」へ三重県から14社の中の1社に選ばれ、海外への進出を果たすことになるのですが、輸出関連の申請書類作成時には井村屋(株)さんの大きな協力を得てスムーズに事が運んだそうです。

今回の企業訪問で田岡社長がインタビューの最後におっしゃっていた話の中で宮沢賢治の「雨ニモマケズ」のお話になり、この詩の途中で「雨にも負けず 風にも負けず…東に病気の子供あれば 行って 看病してやり 西に疲れた母あれば 行って その稲の束を負い…」とある中で、「行って」というところが大切なんだとお話をいただきました。

人のご縁をつなぐ中で、そこへ行って、会って、初めて人はつながるんだと。今はSNSに代表される人とつながる手段はいくらでもありますが、やはりそこへ行って初めてわかること、心通うものがあるんだと。

田岡社長の人に対する真摯な思いや熱い地域貢献への思いの現れで、宿浦地区の70歳以上の一人暮らしの方に毎年クリスマスにはケーキを無償で配布しているそうで、最近は近所の子供達もその活動に協力してくれるようになって来たそうです。

最後に田岡社長が8年前に大病を患ったときに、自分の足跡を残す意味でもと、大ラブストーリーの小説「あなたもステキよ」を2015年に出版されました。フィクションだそうです。そして2017年には南伊勢出身の天下の豪商、河村瑞賢について書いた「わたしの瑞賢論」を出版されました。みなさんもご一読されてはいかがでしょうか。

今回のインタビューで、何事へも挑戦、まず動く、まず「行く」ことの大切さを改めて教えていただきました。田岡社長ありがとうございました。

《インタビュー出席者》

広報委員会 村田典子委員長、清水歳子委員
山路浩一委員、杉山翠女性部会副部長、
福井ゆかり女性部会広報委員長
荒木瞳担当副会長

